



2018年 8月3日 金曜日
(平成30年)

知の技創造

ものづくり大学発

▷37◁

筆者の所属する学科が今年4月より「総合機械学科」と名称変更になりました。筆者が担当する最新の知識や技術を活用した授業の取り組みをご紹介します。

■デザイン思考

学部3年次授業「ユーザ工学」を開講し、ユーザビリティの講義を行い、「ユーザ指向」のものづくりはどのようなものであるべきかを解説します。

■付加製造技術

3Dプリンターなどを活用した加工技術として「付加製造技術」が発展しています。文部科学省の助成金を活用

し、小型3Dプリンターを31科 岡田公彦先生より「鬼瓦人につきー台の環境」を実現しました。

また、本学の両学科教職員、卒業生、職人一同で共同制作した国宝「待庵」の原寸模型が展示（六本木ヒルズ・森美

松本宏行総合機械学科教授

「ユーザ指向」のものづくり



工学院大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。東京農工大学VBL特別研究員、ものづくりの大学専任講師を経て、16年4月から現職。専門は機械力学、設計工学。日本機械学会関東支部広報担当幹事、日本ものづくり学会理事。

「ユーザ指向」のものづくりは、ユーザーのニーズを捉え、それを製品化するプロセスです。最新の技術を活用し、ユーザーの生活を豊かにすることが目的です。

最新規格での図面活用 企業で作成した図面が海外でも通用するためには、最新規格、用語、概念、変更点を十分に理解し、応用する必要があります。学生が最新の知識を身につけることを目的として、「設計コンテスト」主催 公益社団法人日本設計工学会、後援 一般社団法人電子情報技術産業協会JEITA A三次元CAD情報標準化専門委員会）に取り組みさせていただきます。3次元データに計測、加工を考慮して、情報を注記する方法を活用することが重要です。2018年度からの新カリキュラムにおいて、関連授業を開講予定です。卒業後に就職先企業で最新技術を実践的に使いこなす、実力を身につけて活躍してもらいたいと思えます。

術館15周年記念展「建築の日」本展：その遺伝子もたらすもの」が展示されています。待庵は安土桃山時代、千利休の作

「ユーザ指向」のものづくりは、ユーザーのニーズを捉え、それを製品化するプロセスです。最新の技術を活用し、ユーザーの生活を豊かにすることが目的です。